宝ホールディングス株式会社　2010年３月期決算説明会　質疑応答内容

2010年５月17日 野村證券日本橋本社 7F 講堂（東京）

回答者　代表取締役社長 大宮久、代表取締役副社長 大宮正、取締役 IR 室長 松崎修一郎

【質問1】 2011 年 3 月期の業績予想について

Q　2011 年 3 月期の業績予想が第 7 次中期経営計画（2008 年 4 月-2011 年 3 月）最終年度の計画と乖離している理由は。

A　昨年秋頃から酒類業界は非常に厳しい環境となりました。徐々に環境も良くなってきていますが、ひとつの要因は市場の冷え込みです。また、為替も大きく影響しました。このような外的要因がありました。一方、「焼酎ハイボール」や＜極上＞宝焼酎など、現在注力している商品は順調に伸長していますが、今期は、これらの差別化ポイントをもった商品をさらに伸ばしていきたいと考えています。バイオ事業では、遺伝子医療分野における臨床開発が進展していますが、クロンテック社の利益改善等が必要であると考えています。

【質問2】 FOODEX（フーデックス）社の株式取得について

Q　フーデックス社の株式を取得した理由、同社の利益率が非常に高い理由、欧州での競合関係について教えてほしい。

A　当社は、第 7 次中計で「成長のための投資　3 ヵ年累計 100 億円」を掲げ、成長事業育成の加速を目指しています。そのような中、当社が展開している酒類・調味料事業は、日本の景気動向や人口減少の影響を受けやすく、景気が悪化すると売上が減少する傾向があるので、海外事業を成長事業のひとつに位置付けて、伸ばしていこうと考えています。海外で酒類、特に清酒の売上を伸ばすためには、日本食材卸の株式を取得して、日本食材流通の拡大と日本食文化のさらなる浸透を図ることが必要であると考えました。また、フーデックス社は、欧州でのさらなる事業拡大を目指して事業パートナーを探しており、当社と考えが一致しました。

利益率が高い理由については、日本の市場は競争が非常に厳しいのに対し、フランスにおける日本食材の競争環境はそれほど厳しくないということだと考えています。当然、競合もありますが、日本食材を欧州で一緒に広げていくという状況を作って行きたいと考えています。市場規模はまだ小さいですが、今後期待できる市場であると考え、株式取得に至りました。

Q　フーデックス社の販売構成比は酒類が多いのか。

A　米などの食材が多く、酒類については今後さらに注力していきたいと考えています。

【質問3】 原料用アルコール等について

Q　2010 年 3 月期は工業用アルコールが大幅に伸長したが、2011 年 3 月期の計画では大きく伸びない計画となっている理由は。

A　原料用アルコール等のうち、工業用アルコールは近年順調に伸長しており、2010 年 3 月期は粗留アルコールの価格が下落するというフォローの風もあり好調でした。一方、足元では粗留アルコールの価格が上昇傾向にあり、2011 年 3 月期は工業用アルコールの大幅な増加は見込めないと考えています。

【質問4】 成長のための投資について

Q　以前、成長のための投資に関する考え方について、グループ全体では、バイオ事業で広く海外

へ展開し、酒類・調味料事業は基盤となる国内で着実に利益をあげることが使命であり、海外への拡大については、バランスを取りながら行っていきたいと言っていたが、考え方は変化したのか。また、今回フーデックス社の株式を取得したが、今後も同様の株式取得を行う可能性はあるのか。

A　TaKaRaグループとして、バイオ事業の将来的な飛躍のための投資を行っているので、酒類・調味料事業については堅実に進めていきたいという話をさせていただきました。現在でも考え方は変わりません。株式取得に関しても、国内外において様々な案件が考えられますが、当社の方向性は、清酒や本みりんなど当社が現在扱っている酒類・調味料に関連した分野を成長させることであり、それらを欧州で拡売していくために、フーデックス社の株式を取得しました。また、同社は成長性も利益率も高いため、リスクは小さく、むしろチャンスの方が大きいと判断し、株式取得を決断しました。このように、当社の酒類・調味料事業に近い分野で、できるだけリスクを抑えた形で海外へも展開して行きたいと考えています。また、今後についても、同様の案件があれば積極的に検討したいと考えており、世界的な規模で清酒や本みりんなどを販売する会社として成長し、酒類・調味料事業も成長させていきたいと考えています。

【質問5】 ソフトアルコール飲料について

Q　2011 年 3 月期の業績予想において、ソフトアルコール飲料を大きく伸ばす計画だが、そのような計画を立てた背景は。

A　まず、2011 年 3 月期の業績予想を整理しますと、宝酒造グループで 4,330 百万円増収の計画ですが、およそ半分はフーデックス社の売上が加わることによるものです。ソフトアルコール飲料では、「焼酎ハイボール」において前期比+33.8%の増収を見込んでいます。「焼酎ハイボール」は、2010年3月期も前期比+48.3%の増収でした。同商品は、一過性のブームによって増収となっている訳ではなく、食事によく合う味わいという差別化ポイントを支持していただいており、今後も伸びると考えています。また、料理清酒も近年順調に伸長しており、2010 年 3 月期は前期比+14.3%の増収であり、2011年3月期は前期比+10.1%の増収を見込んでいます。料理清酒は安定的に成長しているので、今後さらに伸ばしていきたいと考えています。

現在、売上が伸びているのは差別化ポイントが明確な商品であり、「焼酎ハイボール」や料理清酒の他、全量芋焼酎「一刻者」、本格麦焼酎「知心剣」、＜極上＞宝焼酎など、消費者の皆様に支持される差別化ポイントを持った商品にさらに注力していきたいと考えています。

【質問6】 酒税について

Q　現在の酒税の問題点、今後の望ましい方向性についての考え方は。また、仮にビールが減税となった場合の影響は。

A　「平成 22 年度税制改正大綱」によれば、「アルコール度数に着目した税制とすることを検討」するとされている一方、「類似の酒類については」との言及も見られることから、蒸留酒・醸造酒などの種別内での度数別課税と捉えており、そのような形であれば大きな影響が出るとは考えていません。また、ビールが減税されるかどうかも明確ではありませんが、仮にビールが減税となった場合の影響についても、その時に他の酒類の税率がどうなっているかによると思います。

以　上